



▼ 【親児の会主催・親子ふれあい活動】

5月30日、親父の会主催による親子ふれあい活動が行われ、100名を超える親子が参加しました。はじめに行ったのは校庭の草取り。そこへ、子どもたちが楽しみにしていた“加藤農園さんのヤギの親子”が登場しました。ヤギが草を食べる様子に目を輝かせながら、子どもたちはヤギとふれ合い、草取りにも一生懸命取り組んでいました。

作業の後は、みんなでアイスクリームを楽しみ、続いてはお待ちかねのレクリエーション。スーパーボールすくい、体育館では地域を東西に分けてのドッチビー対決が行われ、白熱した戦いが繰り広げられました。見事勝利を収めたのは西軍！親も子も、そして地域の大人たちも一緒になって汗を流し、笑顔があふれる時間となりました。

「次の勝負は勝つぞ！」との声も上がり、まだまだ楽しい交流は続きそうです。地域の大人と子どもたちがつながり、関わり合い、共に楽しむ姿を見ることができ、とても心が温まりました。今回の活動を企画・運営してくださった親児の会の皆さん、本当にありがとうございました。

▼ 3年生の銀杏学習

稲沢市の特産である銀杏について3年生が学習を進めています。地元の銀杏農家さんの畑を訪れ、実際の様子を見学させていただきました。6月現在、畑には青々とした葉が茂り、丸い小さな実が枝先に揺れています。普段通学路などで見かけることのあるイチョウの木ですが、じっくり観察する機会はなかなかありません。子どもたちは興味津々で、小さな銀杏の赤ちゃんを見つけると、「かわいい！」と声を上げ、ノートに一生懸命

に記録していました。また、観察後には積極的に手を挙げ、農家さんに沢山の質問をしている姿が印象的でした。銀杏といえば独特な匂いを思い浮かべる方も多いかもしれませんが、今の時期は匂いもなく、木や実の力強い美しさがあります。身近にある郷土の自然や特産物を、自らの目で見て学ぶこのような体験は、子どもたちの郷土愛を育む大切な一歩となっているように感じます。

加藤農園の加藤さんとヤギ達



加藤さんへインタビュー
草取りにヤギを連れてきてくれる加藤農園の加藤さんにお話を聞きました。

—この活動のきっかけは？
「親兄の会の人に誘われて毎年来ています」

—なぜヤギを飼っているの？
「ヤギが大好きなんです。4月には子ヤギも生まれ、今は父ヤギも含め3匹で暮らしています。普段は農園の草刈りを手伝ってくれています。」



—みなさんへ
「これからはヤギのイベントを開いて、子どもたちにもっとヤギの可愛さを伝えたいです。いつか“稲沢ヤギ園”を作るのが夢ですのでぜひ、イベントにも遊びに来てくださいね！」

—加藤さん、ありがとうございました！

家族の経験を通して、インクルーシブという考え方に興味を持ちました。子どもたちの声や感情に寄り添いながら、「共に生きる」とは何かを地域全体で考えるきっかけにしたいと、この連載を始めました。



第1回：「インクルーシブって何？」

皆さんは「インクルーシブ」という言葉を聞いたことがありますか？最近、教育や地域づくりの場面でよく使われるようになっています。インクルーシブとは、「すべての人を受け入れ、誰もが共に暮らせる社会を目指す」考え方です。たとえば、性別、年齢、障がいがある人も、国籍が異なる人も、みんなが同じ環境で学び、働き、暮らせることを大切にします。このシリーズでは、「インクルーシブな地域」について考え、私たちにできることを探っていきます。まずは、身近なところからインクルーシブを探してみましょう！

♪今日のあなたに届け♪

「この地域に“ここにいていい”と思えてない誰かがいるとしたら、あなたはその人に気づけているでしょうか？」

※『つなぐだより』6月号をお読みいただき、誠にありがとうございます。

本紙についてのご意見・ご感想などがございましたら、ぜひ QR コードよりお寄せいただけますと幸いです。

